

戦争は無謀・悲惨・残酷だ、もう戦争は起こさないで！

戦争体験者たちが、私たちに残した、この言葉を忘れない

「佐倉平和のつどい」展示会・上映会・コンサート 8月2日(金)9時～4日(日)17時

会場 ミレニアムセンター佐倉(京成佐倉駅北口) 入場無料

共催 佐倉市 後援 佐倉市教育委員会

主催 佐倉平和のつどい実行委員会 連絡先 岩崎 090-8851-4354

日本国民は朝鮮半島、中国大陸、東南アジア諸国の支配と権益獲得を目指した、アジア太平洋戦争(第二次世界大戦)で、アジア諸国の2千万人もの命を奪い、310万人の日本人の命を奪った。

他国民の殺害などの戦場、日本空襲、原爆投下などの戦場、徴兵の学校教育などを体験した世代の人々が、戦争を知らない戦後世代へ「戦争は無謀で、残酷で、悲惨だ、もう戦争は起こさないで。」という決意を日本国憲法に示し、私たちに残した。

「なぜ戦争に反対するの?」という問いに対して「新しい戦前」と評されている現代日本で、戦後生まれの世代は、どのようにして戦争体験者の願いを語り継いで行くのかが問われています。是非とも展示や上映を鑑賞し、次の世代へ戦争体験者の願いが語り継がれることを願っています。

「佐倉平和のつどい」の活動は、「戦争から学ぶ非戦への導き」をテーマに、佐倉市と多くの市民の支援により32周年を迎えました。本年は、広島平和記念資料館、戦争と中央大学プロジェクト、県立長崎南高校新聞部、富山県立石動高校新聞部の協力を頂き、展示資料を構成します。

「あゝひめゆりの塔」上映・・・モノクロ・・・家族で鑑賞してね

人々はなぜ戦争に反対するのだろうか・親から子へ語り継ぐ・日活の協力を得て上映されます。



太平洋戦争末期の中で、連合軍が日本本土への攻撃を行う前哨戦として、沖縄占領にむけ攻撃を開始した。この戦場で猛烈な砲撃や、集団自決で沖縄県人の4人に1人が亡くなった。この時に沖縄師範女子部の女学生が臨時看護婦として動員され命を落とした。

この惨劇を、若き吉永小百合さんたちが、もう戦争は起こさないで、という平和への願いを込めて出演している。

8月2日(金) 上映会 11:00～12:00 14:00～15:10

午前「仕事・働くということ」・故中村哲さんの活動記録

午後「ある特攻隊の日記」「涙に浮かぶ記憶」

8月3日(土) コンサート 13:30～14:30

佐倉市広報課長挨拶 実行委員長挨拶

実行委員合唱団・「平和のうた」「あなたを忘れない」「昴」

上映会 14:30～15:40

「ある特攻隊員の日記」「涙に浮かぶ記憶」

8月4日(日) 上映会 13:30～15:50

佐倉市長挨拶 実行委員長挨拶

「あゝひめゆりの塔」・第二次世界大戦の沖縄の戦場を語り継ぐ内容

戦後世代が「戦争と平和への導き」を語り継ぐ

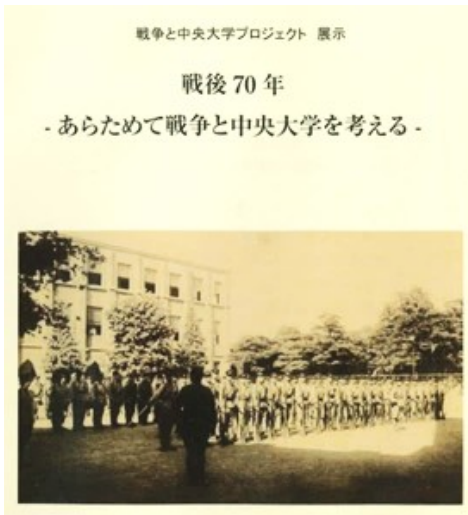
広島原爆資料館よりお借りする「市民が描いた原爆の絵」「子供たちの平和ポスター」



下敷きになった娘を壁を破って助け出そうとする母親 8月6日被爆直後 作者 香川千代江(当時 39歳)
 子どもたちの平和ポスター 作者 広島大学付属小1学年 末次凌生

戦後世代の大学生や高校生が「戦争から非戦への導き」を伝える活動を始めている

「戦争と中央大学プロジェクト」が製作したパンフレットと映像資料



高校生たちの活動 富山県立石動 (いするぎ) 高校新聞

長崎県立長崎南高校新聞

新しい戦前と言われる現代社会において、ガザやウクライナの戦場が毎日テレビで報道されている。無差別に破壊された住居学校、病院、泣き崩れる住民、食糧危機、多くの死者。武力侵攻する人々は正義を掲げて、人々を戦争社会へ導く。しかし今日、憲法9条を持つ私たちが、世界に向けて戦争は起こさないで、という声を上げる、大切な時代となっている。

